

今日の理事公団交(午後6:30(本館)に結集しよう!

学費値上げの陰謀を粉碎せよ

駿台政経学公執行委員公 二部政経斗争委員公
シ文 学公執行委員公 シ文 斗争委員公

1. 学費値上げ

本日の、対理事会団交は、理事会側の二十六日朝職員説明会、二十七日生田職員説明会、二十八日全専任教授に対する説明会、日程が、学生の大波の怒りの前に進められた。現在、ひじょうに重大な意義を占めている。すなわち二十七日の二部学生会中核を中心とした大衆団交の中で、すでに明らかになっているように、武田総長をはじめ、理事会内部において、学費値上げの意思確認がすでに確立され、教職員に対する説明会(説明会)を行なうことにより、内部工作を完了し、その一と下月二十九日(二部学生会)、三十日(本部学生会)に対する正式発表とハインズ・シヨナルが、学生のために一定程度粉碎された現在、どうして理事会内部における一定程度の動きは進め打ちまかせ、すでに理事会内部に確立されている。学費値上げの基本方針を撤回しようとする意向に本日の団交において追求しなければならぬであろう。

2. 我々は、本日の対理事会団交において、七月二日、学生会との。学費値上げ決定前に学生と自分語の合同という協定を結んだにもかかわらず、七月二五日付の岩手日報に記されているように、校務会議開会大会における発言、財政危機がかけつけられた。①家財、②国家助政、③収益事業、④学費値上げ、の四通りがあるが、前三者は全く可能性がないので、学費値上げより道がない。に及ぶという、学生上の協定を無視した教職的態度に現われている。学費問題そのものに對する不誠実態度を断然追求しなければならぬ。

そこで、我々は、そのような理事会の教職的態度に端的に表わされている。学費値上げの理由としてこの教職的態度を粉砕しなければならぬ。すなわち、自己の資本増殖のためになされた莫大の設備投資をすることによってマスロ教育という大学の形骸化をまたたかすこと、やっきとなり、またたきながら理事会が、その設備拡大が必然的に生じたこと、赤字の累積を、一才助に責任を学費値上げにうつす態度をせよとされていることを、我々は、理事会の責任を断然とて追求しなければならぬ。 (学生側)

3. 我々は、このことと闘争して追求するに、我々は、学費値上げの意思のその粉砕をなすことにならなければならない。我々は、現在の大学の形骸化を生み出した経費を針を批判するに、安易な方法で、学校は赤字だ、だから国家補助要請を、理事会と一語に手を結ぶべきである。私的的な方向性、二部学生会自身をそれぞれ自体が悪くしている、論議をこらした、取り引きの道具とするような、学費斗争における、すりかえを許してはならない。

彼等の、国家補助要請路線は、文部省が、経済部補助と引きかえに、国家機関を説明している事をめぐるならば、二重に私的的なものであることを、もつとよく認識するべきである。

学費値上げ阻止の